

令和3年度 第3回 高砂市総合政策審議会 第2部会

議事録

開催日時	令和4年1月27日(木)14:00~16:15					
開催場所	高砂市文化保健センター多目的室1					
部会長	田端 和彦部会長					
委員 (名簿順) 出席 11人	出席	中尾 進委員	出席	増田 賢藏委員	出席	松井 藍委員
	出席	清水 美代子委員	欠席	眞榮 和紘委員	出席	寺延 順市委員
	出席	西牟田 和子委員	欠席	藤原 英修委員	出席	村松 眞由佳委員
	出席	山里 護委員	出席	田端 和彦委員	出席	稲垣 稔委員
	出席	増田 章吾委員	出席	破魔 淳司委員	出席	山口 光一委員
	欠席	小林 誠委員				
議事	協議事項 (1) 第1部会での評価・意見について (2) 第5次高砂市総合計画実施計画令和3年度評価について (3) その他					
資 料	事前配付資料 次第 第5次高砂市総合計画実施計画(行政経営プラン)令和3年度中間評価					

議事の経過
開 会 <本日の資料の確認> <本日の進行について説明> <会議の成立> 部会長 挨拶 前回議論できておりませんでした、教育、子育てを中心についてご議論いただきます。
協議事項 1 第1部会での評価・意見について
(事務局) 前回11月11日に開催した第1部会での審議内容について説明。 (会長) 意見をお受けいたします。なければ次に進めます。

協議事項 2 第5次高砂市総合計画実施計画令和3年度評価について

(会長)

事務局から説明をお願いいたします。

(事務局)

資料に基づき説明。

1-2 子どもが学ぶ力を育むまち【教育政策】

(部会長)

学力の面、教育環境の面、ICT 機器の話も出ていましたが、教育環境の違いが自治体で差が出てくる可能性があります。

重要度、満足度だけでははかれないこともありますがお意見だけではなく、ご提案という形ででもお受けします。

(委員)

近隣市に比べて高砂市は慎重過ぎて、自然学校については、高砂市は 0 泊2日、稲美町は 4 泊通常通りであったそうです。宿泊での体験は自分の行動に責任をもつ、家族と離れたさみしさ、家族のありがたみ等を改めて感じられる機会を高砂の子どもたちだけが未経験であることが気になっています。ICT の活用という点では、授業参観等が無い中で普段の子どもたちの学校での様子が分かりません。参観を中止としてしまうのではなく、オンラインでも出来る方法を検討し、もっと進めていただきたいです。

(教育部長)

ICT 教育については今年度高砂市でも児童生徒一人一台の配備を行い、家庭への持ち帰りも進めているところです。ネット環境の不安定さも解消できつつあり、家庭ではドリル学習を行うことが可能となっています。学校では電子黒板も配備しており、児童生徒の意見を集約することに役立てています。年明けからは、進んでいる学校については、家庭にいる子どもと学校とをつないで、授業を受けるということもやっており、今後全市的に進めていきたいと考えています。

(学校教育室長)

自然学校については、近隣は宿泊等で実施したことも聞いています。高砂市でも当初は宿泊で検討をしていましたが、安心安全を優先した結果となっています。宿泊経験ができなかったということですが、6年生の修学旅行は宿泊付きで実施することができたので、状況を見ながら今後も実施することで考えています。

参観については、細かく状況をホームページで載せているなど先進的な学校もあるので、全市的に広めていきたいと考えています。

(委員)

先ほどの委員のご意見は、他市に比べて高砂はかなり厳しいというご意見だと思います。コロナはエアロゾル感染なので、屋外行事というのは一定リスクが軽減されると思います。安全安心が全面に出ていますが、どのような基準なのか、もう少し丁寧に説明いただきたいです。

(教育部長)

いままでのコロナ対応は安全安心に重点を置いて行っており、他市より厳しい面もあるとも認識しております。運動会等についても子どもを優先して実施することとしており、保護者はその次ということで人数制限をしたところで、多くの方に来られて密となることを防いでいる。安全安心に振れているのが現状です。

(部会長)

ICT については、評価の対象となっているので、先進的な事例を含めて見えてこない部分もありますが、学力調査にも影響するベースとなるものです。

学校行事での非認知能力に影響があるということは、市の方針にも関わることがあるので明記させていただきたいと思います。

(委員)

学校から情報発信をしてほしいということだけを求めているわけではありません。それは子どもから聞けばわかることです。子どもたちがどのような関わりや過ごし方をしているのかを動画等で見られる環境を作ってもらいたいという意図です。毎日ということではなく、行事のような形でしていただきたいです。

(部会長)

肖像権の問題等いくつかクリアすべき課題等があると考えられますが、保護者用のパスワードを配布して閲覧制限をかけるなどの方法もあります。

リアルタイムでつながるときに、先生側の緊張感もあります。この 1-2 のテーマに即すならば、ただちにできることではないでしょうが、今後検討をしていただきたいと思います。

(委員)

基本的な方向性の②に「学校に通う子どもが、安全に安心して学習できる環境が整っています」とありますが、現在小・中学校で不登校となっている児童生徒数と、どのように ICT 教育をしているのか教えてください。

(部会長)

学校に来ることが前提ではなく、不登校でも ICT を活用して検討できるのではないかとというご質問です。

(学校教育室長)

資料が手元にないので正確な数字ではないかもしれませんが、中学生で約 90 人、小学生で約 40 人と記憶しています。タブレットも配布し、家庭学習やライブ配信も考えられるので、保護者の方と学校とも相談しながら個別に対応していきたいと考えています。

(委員)

タブレットを一齐に使用しようとするとう繋がらないと聞きます。インターネット環境整備の強化をお願いします。

(部会長)

大学もそうですが、当初想定しているよりも大きなトラフィックとなっています。予算が必要なことでもあるので、早急に対応をお願いしたいです。学校は一齐にしないといけないということで、余裕を持った容量を確保する必要があります。

(教育部長)

オンライン環境については、携帯電話のように個々の端末が1対1で業者につながるということになっています。学校で集約して業者とつないでいるのではなく、業者で集約されたとこ

ろでトラフィックを起こしているのでは、お金がかかるということではなく業者の問題です。

(部会長)

業者の責任にするのではなく、学校にルーターを設置するなど対策方法は他にもあるはずです。ICT 機器を活用した授業をする上では欠かせませんので、対策をお願いします。

(委員)

ジェンダーの問題で、高砂中学校の制服が変わるということで大変喜ばしいことです。是非進めていただきたいです。

(部会長)

教育の問題と合わせて人権の問題にも関わります。

(教育部長)

制服は、まずは高砂中学校で先進的に取り組んでいます、進めることができたのは地域とともにある学校づくりが進んできていることが考えられます。ジェンダーということもあるので、時代に合ったような制服を選択していただきました。制服だけではなく大きな流れの変化であるとも考えています。制服が変わるということは校則の変更ということにも繋がるので、他の5校についても今の時代に合った校則に変更するように進んでいくと思っています。

(委員)

学校、家庭、地域が連携するということは、情報発信がないとわかりません。ご理解を頂こうとするなら、情報発信が必要となってくるのに。デジタル化のブレーキが 50 代以上でかかってしまっています。

(部会長)

まち・ひと・しごとにも関わる部分であると考えます。

(委員)

情報発信と子育てという点で、市民満足度調査の自由記述を見ると、「明石市のように」というキーワードが多いです。どのような施策の違いがあるのか調べてみましたが、高校3年生まで医療費無料、公共施設無料(児童館等)、毎月オムツを届けて話を聞くという見守り訪問をされています。これは、コープこうべの方が各戸訪問されていて、行政と企業が一緒になって、不安や問題を行政につなぐということができています。コープこうべは高砂市にもあるし、マネできることでもあると思います。

(部会長)

直接子育て世代に話を聞くことができる、当事者から話を聞くということが大事ではないかというご意見です。明石市は子育て世代が多いですが、高砂市は逆にお金を抑えて実施ができるのではないかと考えられます。反映されるような仕組みということで何かお答えありますか。

(健康こども部長)

オムツの配布は高砂市では行っておりませんが、高砂市では、3歳以上の副食費の無償化という明石市がやっていないこともやっている部分もあるのにピーアールがうまくいっていません。明石市は情報提供が上手であるとも思っています。

行政と保護者との接点をいかに設けるかについては、新生児の景品をお渡しするというのも一つですが、子育て世代包括支援センターとして保健師が必ず1回は赤ちゃんの保護者にお会いして状況をお伺いし周りに助けてくれる人がいるかということをお伺いしたり、子育て

支援センターでは 0 歳の方が来れたりする取り組みを行っています。各こども園では、子育て支援事業としてお母さんとふれあう機会があり、悩みや意見を聞くということで活用されています。また、望まない出産や若くて不安なお母さんの状況を把握し、DV や虐待等に結びつかないように配慮しています。

(部会長)

その点、明石市は保健所や児童相談所も持っているのも、一体的にできるという違いがあります。

1-3 個人が尊重し合い、安心して平和に暮らすまち【人権政策】

(部会長)

人権にかかわる差別があるとの回答が倍となっていますが、どのように分析されていますか。

(福祉部長)

倍以上の結果で驚いています。それ以前の数字も調べてみましたが減少傾向であったのに令和3年でこのような状況になっています。正確な要因は分かりませんが、昨年8月にこのアンケート実施した頃にはオリンピックがありました。そのときに差別発言、女性蔑視、選手間同士での問題等もありましたので、アンケートの結果に反映されたのではないかと考えています。

(委員)

犯罪被害者等の支援に関して、4月から条例ができるということも聞いていますが、生活困窮者とは違い、犯罪被害者は調べればどこに住んでいるということが分かります。相談をしてもらってから動くというような待ちの姿勢であるように見受けられるので、寄り添っていくような支援ができないのでしょうか。

(部会長)

アウトリーチということも含めていかがですか。

(福祉部長)

犯罪被害者に寄り添った支援についてですが、市が直接状況を把握するには警察の協力が必要です。条例ができれば、警察にお知らせして警察から情報をできる範囲でいただき把握していく必要があると考えています。

(部会長)

課題として、若い世代を中心に回答率が高くなったことを踏まえて要因について検討していく必要があります。オリンピックが背景にあるとの見解ですが、それだけでは説明が難しいのでもう少し分析が必要です。若い方の回答が増えているという傾向を考えると、外国人差別やこれまでにない新しい人権という点が、数字に表れているのかもしれませんが。

「寄り添う」という考え方について、被害者は PTSD などのトラウマを抱えている可能性があり、警察で嫌な思いをしている人もおられるので、警察を窓口にしない方法も検討すべきで、ソーシャルワーカー等の活用も考えられます。これは福祉であり、警察は法務です。それとは分けて考えた方が良いでしょう。

1-5 健康を維持し、医療サービスを安心して受けられるまち【健康・医療政策】

(委員)

特定健診の受診率は県下でも低く、何年も前からいろいろな施策を打ってくれています。

がん検診であるが、コロナ禍で病院に行かないでがん患者が増えている。肺がんで亡くなる確率が高く、肺がん検診の受診率も低いのが現状です。

市民病院で検診センターができ、肺がん検診ができるようになりました。明石市もやっていましたが、予算上廃止となって明石市の医師会は残念がっています。

東播磨夜間救急については、日曜日の昼間は開業医でまわしていましたが、平均年齢は65歳で医師の負担が大きくなっています。二市二町で協議し昨年11月から加古川西市民病院の北側に建て、若い先生にも来ていただき5～10年先の新しい先生が活用できるようになりました。

高齢者のワクチン接種率は兵庫県でトップであり、ワクチン開業医の先生にもご協力いただいて評価してもらっているところです。

(委員)

若者や子どもたちばかりに比べて、高齢者をないがしろにしてほしくないと思います。中学生は、人命救助の実習が1度しかないと聞きます。防災訓練は小学生からは毎年ずっとあり、学校で応急救命の機会を得てもいいのではないかと思います。

(部会長)

AEDの講習は消防になるかと思いますが、ご意見として承ります。小学生はなかなか難しいが、人命救助の時に中学生の生徒手帳に書くこともできたり、家庭でもできたりすると人工呼吸や心肺蘇生の動きができれば助かることもあるでしょうから有効だと思います。

(委員)

AED講習は消防と医師会と協働してやっており、小中学校まわって行いました。消防の方は小中学校の行事予定に組み込んでもらえれば積極的に行きたいと言っていました。

(委員)

近々の医療の問題として、オミクロン株によるコロナ患者が増え高齢者層が合併症を抱えている人が中等度となる場合も考えられますが、高砂市民病院の対応についておうかがいします。

(市民病院事務局長)

東播磨医療圏内で役割分担をしており、高砂市民病院は軽度、中低度の患者に対応することになっており、中等度になれば加古川医療センターに送ることになっています。陽性率は報道のとおりですが、軽症者がほとんどです。中等度は東播磨圏域ではほとんどいない状況で、仮に軽症で入院されて中等度になると最大限対応をさせていただいているところです。

(委員)

慢性疾患をもっている方は市民病院で対応するという認識で良いですか。

(市民病院事務局長)

慢性疾患を持たれているコロナ患者の場合は、加古川医療センターに送らせていただくこととなります。

(委員)

保健所で割り振られます。第5派の時は阪神間の方の受け入れもあった。患者の意向というよりも県下全域で入院を割り振っています。

(部会長)

高齢者で厳しい状況の方でも在宅で療養をすることになり、いざとなれば救急車を呼ばないといけないということもあります。これから出てくる問題でもあるので準備しておくということが大事です。

3-2 まちを考え、行動する市民活動があるまち【市民活動政策】

(委員)

地域交流センターについて、なぜ山陽電車で結ぶことができる高砂、曾根だけを整備するのですか。バスも不十分で、南側だけを強化しても仕方がないと思いますし、北部はどうしていくつもりですか。

(市民部長)

平成 30 年に地域交流センター整備方針を作ってから、曾根地域交流センターの運用を見てからほかの地区を検討するということで計画していました。高砂町については、高砂コミュニティセンターと高砂公民館を統合することで地元協議を進めていき、他の6地区でも同じような課題があるだろうということで、既存の公民館の場所を地域交流センター化するという考えており、順次連合自治会の役員の方にご意見をお伺いしているところです。すでに7地区説明は行っており、市内8地区を地域交流センター化することで検討しており、地域の皆様と協議をしていきたいと考えています。

(部会長)

社会教育施設から市長部局に移行するということでもあります。

(委員)

そもそも公民館は何のために出来たのかということです。長野県飯田が公民館活動が盛んなところですが、地域の社会教育の場であったり交流の場であったりと幅広いことを公民館主事が軸となってやっておられます。飯田という田舎ですが、全国から視察に集まるような場所となっています。

これから公民館が老朽化が問題になってくるとは思いますが、何を目的とするのかが一番重要だと思います。誰がどう回していくのかというビジョンも必要です。地域におけるいろいろな人が地域の拠点として活用できるのか、行政、市民、民間事業者が協働していけるのかどうか。趣味の場を貸すだけということになってしまわないか懸念しています。

(部会長)

公民館の役割が変化してきているということもあります。地域交流センターの整備目的が参画と協働という理念のもとで活動ができるような人的な配置ということも意見として載せていきたいと思います。交流センターとしての目的が明確となっているのかや、他の地区にも波及するというものであるので説明をお願いします。

(市民部長)

地域交流センター化は、地域住民のコミュニケーション、地域力の向上に寄与することを目的としています。運営は地域の方にもご協力いただき携わっていただきたく、各地区回っているところです。市の職員の配置が必要であろうと考えていますが、人的な配置は検討中です。社会教育部分についても教育部と調整しながら考えていきます。

(委員)

老人クラブは会員制のクラブで地域活動に関わっています。会員が増えない、公民館活動への参加も高齢者が多いです。高齢者大学、各公民館のサークルがどこも減っており、以前の1/3 となっているところもあります。公民館を使っておられる方にどのような使い方が良いかを聞き、利用者を増やしていく、新しくコミュニティセンターとするのならこのままの状態では活用が難しいと思います。

(部会長)

現在の使い方や利用者を増やすアンケートを取ってもらいたいということです。具体的な施策を進める中では現状把握が必要です。

(委員)

市民コーナー機能が変わるという印象しか受けません。地域の方が困ったときに行ける場所が必要で、コミュニティワーカーを置くことも考えられ、第2層生活支援コーディネーターとして待つ姿勢ではなく出ていくこともできるのではないのでしょうか。地域に開かれた学校というも含めながら、地域で地域の問題を解決していくということが必要と考えます。

認知症の方が増えてきており、認知症カフェなど認知症をサポートする人も増えているということであるが活用できていないとも聞きます。行政の方はどのように考えていますか。

(市民部長)

地域交流センターについて、相談機能というのは強化していかないといけないと考えています。行政手続きの相談も引き続き行い、専門的な相談は本庁舎に適切につないでいく役割を担います。福祉の相談員は巡回するなどして配置していくことを検討しています。

(福祉部長)

サポーターについては、人数は小中学校や企業にもお願いして増えています。活躍する場というのが課題であり、認知症カフェでお手伝いをということで動いていただきますが、今はまだ4箇所である。認知症の方、ご家族の方に支援をするチームオレンジグループの取組にサポーターの方に関わっていただくような取り組みをしていきたいと考えています

(委員)

よってこ村荒井が3月に閉園となりますが、スポーツ広場とは別に、「広場」という活用について考えていただきたいです。

(委員)

公民館から名前を交流センターに変えるのであれば、いつでもだれでも行けるような、例えば子どもが宿題を持って行ってできたり、そこにいる高齢者と将棋遊びをしたり、ちいさな赤ちゃんや子ども食堂があって、ここに行けば誰かに会えるということを取り入れてもらえればと感じました。

(部会長)

ご意見があるということはお伺いしたので、可能なものであれば検討していただきたいですが、土地の確保等の課題もあるので今後の研究課題とさせていただきたいと思います。

フリースペースは多世代、3世代で交流できる場、自由に寄って来られるような場としたいということで、自主的な活動ができる場として夢のシロ等もあります。アダプトであればどのような効果があるのか、地域の核を作っていくような部分もあろうかと思いますが、行政が持っていたものが開かれて自分たちの公園として整備していく。補助を出してどのような成果があったのかということも次回以降の参考としていただきたいと思います。

(委員)

重点評価指標は 85,795 人となっていますが、神戸新聞の記事によるとわずか1年で千人減少しているそうです。目標値は行政が考えられて掲げているということかもしれませんが、これを守っていくということが大事ではないですか。この数字はいつどのようにして決まったのですか。高砂市は金のかかる事業は避けているのではないか、財政基金を明石は 100 億円を使ってやっています。また、評価及び審議会評価及び意見の答えはいつ発表されるのですか。

(事務局)

人口は、総合政策審議会で諮りご議論いただいています。高い目標を掲げた方が良いのではないかとということで定めたものです。市の財政としてのお金を使い先はこの審議会でご意見をいただいて、市議会に提案していくことになります。

(部会長)

前提になる数字は 2021 年転出超過者は 0 人です。この総合政策審議会が行革の部分も持っているので、2つの観点から議論ができる会議体です。高砂の場合は、計画も見ながら財政も見えていくという特殊性を持っています。

協議事項 3 その他

(事務局)

第2次環境基本計画の改訂版(案)の概要版について配布しています。昨日をもってパブコメは終了していますが、ご意見がありましたら1月31日までにメールでお寄せいただきますようお願いします。

(会長)

本日の議題はこれで終了となります。どうもありがとうございました。

(事務局)

これをもちまして、会議を終了いたします。

以上